

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:R2年 3月 31日

事業所名 放課後等デイサービスきぼう東岩槻

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	3	活動グループを分けている	パニック時の対応ができるように静養室の用意がしたい
	2	職員の配置数は適切である		7	職員間の連携強化	求人募集をかけている
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	5		身体障害児の受け入れを行っていないが、手すりや棚をつけられたらと思っている
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7		meetを使用しリモートでも振り返りが出来る様になっている	全職員が情報共有でよう心掛けている
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	4		業務改善に取り組んでいるが、全保護者の全意向にこたえられているわけではない
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	3	LITALICOのHPに掲載	自社HPにも掲載できるようにしていく
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	5	法人内の他部署にでもらっている	社内で第三者評価について浸透していないのでしてもらっていることを周知していく必要がある
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	2	5	社内研修制度あり	社外でも研修が受けられるので、積極的に参加ができる体制づくりを行いたい
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	1	保護者と児童のニーズが反対の時は両者にとって良いものを計画ができるよう心掛けている	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1	発達段階アセスメントシートを使用している	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7		前日の活動を考慮しつつ、その日のリーダーが骨組みは立て全員で話し合いを行っている	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		全員で話し合いを行うので、活動に偏りがでないようにしている	同じ公園など短期間で何度も行ってしまふ
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7		月間目標を一人ずつ定めている	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7		時間や曜日によって変わる児童の変化によって、個別にするか集団活動にするかを考えている	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7			
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7			
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7			
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		管理者や関わりの深い職員が参加をしている	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7		各学校のHPを見たり保護者から直接確認をしている	

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		7		医療的ケア児の受け入れなし
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	3	受け入れが決まったら情報共有会議をしている	その情報を現場まで確実に共有・周知できるようにしておく
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		7		卒業生だと放課後デイより学校との連携のほうが多いので、今後は卒業する児童に対してのケース会議への参加・開催ができるようにしたい
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		7	相談支援センターとは密な連携が取れている	18歳以上の発達障害者支援センターとの連携は取れていないので、今後連携できるようにしていきたい
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		7	公園で話しかけてもらったりする	以前は交流があったが、今年度はコロナ禍のため開催なし
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	7		管理者が参加	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		送迎時や連絡帳、それが難しいときは電話やラインにてお伝えしている	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	7			随時必要に応じて行っているが、必要性を感じていただくことが一番難しい課題
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		契約時に説明している	契約時のことなので、忘れられている場合もある。そのため手紙の配布等を検討中
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		随時伺い、その場で答えられないようなことは持ち帰り話し合いを行ってお伝えしている	話してもらえやすい雰囲気作りをする必要性がある
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		7		以前はしていたが、コロナ禍のため開催なし
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7		その日のうちに解決ができることはさせていただき、事業所全体で見直さなければならぬことは改めて対応策等お伝えするようにしている	職員間の報連相や引継ぎ等の強化
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	5	手紙は都度配布している	季節ごとの会報を今年度から出す予定
	35	個人情報に十分注意している	3	4	鍵付きロッカーを使用	事業所のマニュアルを作成予定
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		一人一人に合わせて行っている	
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		7		コロナ禍のため開催なし
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7		職員・保護者に配布	新しくなる度にお知らせをしているが、情報が更新されていない場合がある。面談等を通し保護者への情報をアップデートしていく
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7		地震・洪水等を想定した避難訓練の実施	保護者へ緊急連絡先等を確認して、すぐに連絡が取れるようにしている
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		年に1回以上実施	防犯カメラを通して映像が確認できる環境にある
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7		契約時に説明し、同意書を書いている	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7		おやつ提供時にアレルギー対応者に配慮をしている	

43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	インシデントファイルを作成し全員が見られる場所に保管している	
----	---------------------------	---	--------------------------------	--